



Newsletter

June 2013 No.18

■ 第40回日本神経内分泌学会学術集会開催のご案内

会長 中里雅光 (宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野 教授)

今年度の日本神経内分泌学会学術集会を、10月25日(金)と26日(土)の2日間、宮崎市の宮崎市民プラザで開催致します。同会場は市内中心部にあり、空港や駅からも近く、近隣にはホテルも多く便利な所です。40回目の記念となる本学術集会を、日本比較内分泌学会(同会会長 宮崎大学農学部海洋生物環境学科 香川浩彦教授)と合同で企画・運営しますことを光栄に存じます。合同開催の特色を生かし、両学会の会員が企画する2つのセッション(合同シンポジウムと sun-rising star シンポジウム)に加え、盛大な合同懇親会を準備しています。プログラムなど詳細は、学会ホームページ(<http://www2.convention.co.jp/40JNS/>)に順次掲載致しますので、ご覧頂ければと思います。

今回初めてのプログラムとして、この1年間に Endocrinology, JCEM, J Neuroendocrinology に掲載されたインパクトのある神経内分泌領域の論文を基礎と臨床に分けて紹介する「THE YEARシリーズ」、若手会員を対象とした「科研費申請書の書き方」や「英語でのプレゼンテーションと質疑応答のコツ」、「下垂体機能低下症診療のハウツー」、「遺伝子操作のノウハウ」を紹介する「モーニングセミナー」ならびに「ペプチド探索の具体的実験法」、「内分泌負荷試験の実践と評価」、「下垂体腺腫の治

療」などを伝授する「とことん神経内分泌」、留学経験のある女性会員がその魅力やキャリアアップを語る「女性研究者セッション」など、を企画しています。これらの新規企画に加えまして一般口演、特別講演や若手研究奨励賞発表、スポンサー共催企画など様々なセッションを通じて、知の伝道(本会のサブテーマである inspire a generation)としての本学術集会を堪能して頂ければ幸いに存じます。また、わが国が誇る神経内分泌領域のお二人の巨匠にも御参加頂ける予定になっています。学部学生、大学院生、研修医や若手の医師や研究者が参加しやすいように、一般口演演者に多数のトラベルグラントを公募します。



10月の宮崎は、全国和牛能力共進会において連続日本一に輝いた宮崎牛や歯ごたえのある地鶏など、食欲の秋を満喫できる最高の季節です。宮崎の地で知的好奇心や食欲を十分満たして頂けるように、心からのお迎えを準備しています。奮ってご参加頂きますよう、宜しくお申し込み申し上げます。

■ 吉田 尚先生を悼んで

齊 藤 寿 一（元日本神経内分泌学会理事長 自治医科大学名誉教授） ■

去る平成25年1月17日に、吉田 尚先生が御歳82歳で亡くなられた。私が大学卒業後三年を経て東京大学第三内科内分泌研究室に入り、先生から直接に内分泌学研究のご指導を受け始めたのが昭和40年であった。その後、先生は新設された自治医科大学で内分泌代謝学教室の初代主任教授に着任され、私自身も、同大学で助教授として引き続きご指導を受け、先生が昭和58年に千葉大学に第二内科教授として赴任されるまで通算十八年もの間、研究はもとより教室の運営や研究者としての生き方まで教えて頂いた。

先生は昭和29年に東京大学医学部を卒業されてから、第三内科に入局され昭和36年に米国クリーブランドの Western Reserve 大学生理学教室の G. Sayers 教授の研究室での留学から帰朝され、同内科の内分泌研究室で下垂体後葉ホルモン、アルギニンバズプレシン（抗利尿ホルモン、VP）の研究を始められた。先生はまず血中 VP 濃度の測定系を追求され、血漿 10ml から出発して除蛋白、カラム抽出そして濃縮を経て、ラットへの静脈注射後の尿電気伝導度の変化を指標にした VP の生物検定系を多くの工夫と検討の末に確立された。この測定法はその後“Tokyo Group”の測定法として国際的にも高く評価された。この測定法を出発点として、動物におけるVP分泌調節機構について血漿浸透圧、あるいは出血量との相関を検討され、また臨床的には低ナトリウム血症の病態や多尿を来す尿崩症と心因性多飲症の鑑別診断などに大きく貢献されたのであった。1972年に慢性高ナトリウム血症が持続した一剖検例で世界に先駆けて慢性下垂体後葉炎の病像を私が報告できたのも先生のご指導の賜物であったと深謝している。自治医科大学に移られてからも視床下部の器官培養に手技を挙げ、VP の分泌調節機構解明の研究を深められた。我が国におけるVP研究は国際的にも高く評価され、下垂体後葉に関する国際会議を数次にわたり日本で開催出来たのも、先生のご業績の高い評価が大きな力となっていたと思

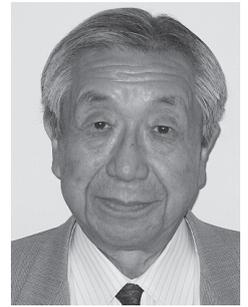
われる。

千葉大学第二内科主任教授として赴任されてから、先生は VP 研究に加えて更に肥満症等にも研究領域を展開された。先生の視点は常に生体機能調節の主座を占める中枢神経系と内分泌系の役割とその相関に注がれており、そこを基軸として生体现象の理解を窮めて行かれたのであった。学会においては日本内分泌学会理事長をはじめ日本神経内分泌学会の前身である日本内分泌学会神経内分泌分科会の会長を務められ、さらに日本神経内分泌学会名誉会員として日本における神経内分泌学の基盤形成に大きな役割を果たされたのであった。

先生は入局後、間もなくから「和尚さん」と呼ばれて来られた。これは勿論、お名前の「尚」をもじった愛称ではあるが、その名の通り先生は常に穏やかな表情で周囲の人々を春風のように包む「和」のお人柄をにじませておられた。学問に対する厳しい姿勢、たゆみない研究でのご努力の一方で、同時に周囲の人々を和ませ、その後姿を通して後輩や教室員を指導される「和尚さん」と呼ばれるに相応しい方であった。

私が内分泌関連の学会に出席する様になった時に、先生は「学会では他の研究者の発表の真髓をしっかりと聴き、進んで質問しなさい」と助言して下さった。この励ましはその後私の心に強く残り、学会場ではもとより、他の会議等においても「他者の言葉を傾聴し、同時に建設的な精神を持って発言する」という私自身の心がけを育てて下さった。

吉田 尚先生のご冥福を心からお祈りする次第である。



■ 第10回国際下垂体後葉ホルモン会議のご紹介

—2013年7月15日～19日、英国ブリストルにて開催—

上 田 陽 一（産業医科大学 医学部 第1生理学） ■

国際下垂体後葉ホルモン会議（World Congress on Neurohypophysial Hormones：WCNH）は、下垂体後葉ホルモンとして知られるバズプレッシンとオキシトシンおよびその関連分野の研究者や臨床家が一堂に会するとてもユニークな会議です。1995年に第1回会議を齋藤寿一先生（当時自治医科大学教授）が那須（栃木県）で主催され、その後隔年で開催されてきました。今回で第10回を迎えます。この間に日本でもさらに2回（2003年第5回京都、2009年第8回北九州）開催されました。

第10回（<http://www.vasopressin.org/>）の開催場所である英国ブリストルについてご紹介します。ブリストルはロンドンから約170キロメートル西方に位置する大西洋側の港町です。西側の貿易港として栄え、荷揚げされた物資を速やかにロンドンに輸送するためにブリストル—ロンドン間はほぼ一直線の高速道路と鉄道で結ばれており、移動にはとても好都合です。

私は、1993年～1995年の2年間、ブリストル大学内分泌内科のStafford Lightman教授のもとに留学しました。ブリストル市内の観光名所としては、SSグレートブリテン号や大きな吊り橋（サスペンションブリッジ）があります。また、隣町のバース（お風呂のBathの語源となった名称）は、ローマンバースというローマ時代の温泉風呂が残っていて町自体も美しくいつも観光客で賑わっていま

す。

1964年にX線解析法によって生理活性物質の分子構造を決定した功績によりノーベル化学賞を受賞したDorothy Hodgkin博士（1910年～1994年）がブリストル大学の学長（1970年～1988年）を務められました。私が留学している時に特集記事（ご逝去のため）が大学広報誌に掲載されたのを読んで知りました。また、Lightman教授が当時のJournal of NeuroendocrinologyのEditor-in-Chiefであったことからブリストル大学が英国の神経内分泌学の拠点の一つであることがご理解頂けるかと思います。

さて、第10回はブリストル大学のDavid Murphy教授が主催されます。Murphy教授は高度な分子生物学的手法を用いてtranscriptome、アデノウイルスを用いた遺伝子導入、遺伝子改変動物の作出等、この分野のトップランナーの一人です。魅力的なプログラムとともに英国のバブで飲むビールの味も魅力の一つです。この時期の英国は夜遅くまで明るく、また涼しく過ごしやすい気候です。

ご参加頂いた方にはきっとご満足頂けることと思います。奮ってご参加下さい。



■ 第8回国際神経内分泌学会議 (ICN2014) 開催のご案内

—2014年8月17日～20日、オーストラリア シドニーにて開催—

上 田 陽 一（産業医科大学 医学部 第1生理学） ■

国際神経内分泌学会議（International Congress of Neuroendocrinology）は、オリンピックのように4年に1回開催され、神経内分泌に関係する世界中の研究者が一堂に会する会議です。来年8月17日～20日にかけてオーストラリアのシドニー（ヒルトンシドニー）で開催されます。詳細は、ホームページ（<http://www.neuroendocrinology2014.org/>）を御覧下さい。

Journal of Neuroendocrinology のEditor-in-ChiefのDave Grattan教授（University of Otago, New Zealand）を会長として、ニュージーランド、オーストラリア、マレー

シアなどの神経内分泌グループが集結して準備を進めています。

また、今回は第18回国際行動神経内分泌学会年次大会が同時に開催されます。Grattan教授には、昨年の第39回日本神経内分泌学会学術集会での特別シンポの基調講演でご講演頂きました。ぜひ、日本からたくさんの方々に参加してほしい、とGrattan教授がおっしゃられていました。

まだ1年以上先のことではありますが、どうぞ皆様奮ってご参加頂ければ幸いです。

■ 第2回国際キスペプチン会議開催のご報告

小澤 一史 (日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野)

平成24年(2012年)11月6日から9日までの4日間、東京都文京区本郷の東京大学伊藤国際学術研究センターを会場として、第2回国際キスペプチン会議(2nd World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain)が開催されました。本国際学会は第1回として平成20年(2008年)にスペインのコルドバ市で開催され、その4年後の昨年、第2回として日本開催となりました。前多敬一郎教授(名古屋大学、現東京大学)を会長に、またプログラム委員長として岡 良隆教授(東京大学)を中心に、日本国内でキスペプチン研究、あるいは生殖神経内分泌学の中核をなす研究者10名ほどが集合し、組織委員会を構成し、第2回国際キスペプチン会議の日本開催に向けて準備し、開催を迎えました。平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災の影響により、国外の研究者がどの程度集まってくるかが心配でしたが、そんな心配は全くいらぬほど多数の研究者が集まり、むしろこんな時だからこそ、「頑張れ日本」の気持ちで集ってくれた研究者も多数おり、感激を味わう学会でもありました。

特別講演2題、シンポジウム講演28題、一般口演19題、ポスター演題77題となり、参加者総数は約300名、そのう

ち約1/3は海外からの参加者で、大変に盛況な学会となりました。約10年ほど前にキスペプチンが発見され、その研究が始まり、第1回のコルドバでの国際学会の時に参加者がおおよそ200名弱であったのですが、交通の便などを考えるとコルドバに比べてやや遠くなる東京開催にもかかわらず、第1回をはるかに超える参加者となり、また、研究内容もはるかに多岐にわたり、キスペプチン研究がいよいよ新しい次のステップに入り始めたことが明らかになった学会と言ってよいと思います。そして、キスペプチンニューロンを中心にエネルギー代謝に関わる神経系、ストレス応答に関わる神経系、生物時計(概日リズム)に関わる神経系、その他多くの仕組みと関わる可能性が報告され、今後のキスペプチン研究がさらに発展する可能性も学ぶ機会となりました。

今回の学会では、比較的若い研究者の参加も目立ち、それ故に、澁刺とした学会の雰囲気が生まれていたことを実感しました。日本の学会でも若手研究者の積極的な参加が



懇親会で集合した国際組織委員会とローカル組織委員会の面々

議論されますが、やはり若手研究者が多く参加すると、必然的に学会の中身が活性化される様子を、身をもって感じた次第です。

第3回はアメリカ合衆国において開催される方向で意見がまとまりました。第3回ではキスペプチンニューロンを中心に、より広く生殖神経内分泌を考える研究会にし



前多敬一郎会長による opening remark

たいという意見交換もなされております。キスペプチンは思春期発動、生殖機能調節等の産婦人科、小児科、精神医学といった臨床医学分野とも大きく関わる問題に関わります。我が国においてもより一層こういった分野の若手にも興味を持って頂き、さらに深い研究が進むことを願ってやみません。



和やかな雰囲気の中、充実した意見交換が行われたポスターセッション

編集後記

企画広報担当常務理事 上田陽一（産業医科大学医学部第1生理学）

今年は桜の開花の時期が例年よりも早かったことが話題となっていました。5月の連休最終日には宮崎県において全国で初めて真夏日（最高気温 30℃ 以上）を記録しました。連休明けには、全国各地で真夏日を記録したことがニュースとなっていました。今年も猛暑の夏がやってくる予感がします。

さて、本ニューズレターの冒頭には、第40回日本神経内分泌学会学術集会の宮崎市での開催(10月25日-26日)のご案内が掲載されています。中里学術集会会長のもと、鋭意準備が進められています。どうぞ、皆様ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年、日本神経内分泌学会特別功労賞を受賞されました

吉田尚先生が本年1月17日にご逝去されましたこと、心よりご冥福をお祈り申し上げます。齋藤寿一先生から追悼文をご執筆いただきました。

第10回国際下垂体後葉ホルモン会議の紹介、第8回国際神経内分泌学会の案内を掲載しました。小澤一史先生からは昨年11月6日-9日に東京大学で開催されました第2回国際キスペプチン会議のご報告文が寄せられました。キスペプチン研究の世界的な盛り上がりを感じることができます。どうぞご一読いただければ幸いです。

今年も約半分が過ぎようとしています。暑い夏を乗り切り、会員の皆様と宮崎市での学術集会でお会いすることを楽しみにしております。

■ お知らせ ■

● Topical Briefingsのホームページ掲載について

英国神経内分泌学会 (British Society for Neuroendocrinology : BSN) のホームページ上に神経内分泌学の教育と啓発のためにトピックス (イラスト入りでA4版表裏あわせて2ページ) を分かりやすくまとめたものが掲載されています。現在、No. 1 ~47が掲載済みで英国神経内分泌学会のホームページの Topical Briefings のサイト (<http://www.neuroendo.org.uk/Topics.aspx>) からダウンロードできます。

この度、英国神経内分泌学会から日本神経内分泌学会ホームページからのリンクの許諾をいただきました。日本神経内分泌学会ホームページの <http://www.nacos.com/jns/j/topics.html> をクリックすると下記のような日本語併記のタイトルをご覧いただけます。とても魅力的なタイトルが並んでいますので、ぜひアクセスして本文をご一読いただきますようお願い申し上げます。

企画広報担当常務理事 上田 陽一

1. Environmental estrogens: A hazard to human reproductive health?
環境ホルモン エストロゲン：ヒトの生殖能力に対する脅威
2. Brain development, fertility and Kallman's syndrome
脳の発育、性腺機能そしてカルマン症候群
3. Leptin: Your brain, appetite and obesity
レプチン：脳における食欲と肥満
4. Growth hormone rhythms from the brain
成長ホルモンの概日リズム
5. Stress hormones and your brain
ストレスホルモンと脳
6. Sex hormones, mood, mental state and memory
性ホルモンと気分、精神状態、そして記憶
7. Sex differences in the brain
脳の性差
8. Glucocorticoids, ageing and nerve cell damage
糖質コルチコイドと加齢そしてニューロンの障害
9. The cause of Cushing's Disease
クッシング症候群の原因
10. Biological timekeeping
生物学的な時の刻み方
11. Pheromones and reproduction
フェロモンと生殖
12. The maternal brain
母親の脳
13. Early life stress can programme our health
人生初期のストレスは私たちの健康を決める
14. Is there such a thing as a healthy appetite?
健康なのに肥満ってあり？
15. Ghrelin: A newly discovered hormone
グレリン：新しく発見されたホルモン
16. Genomic imprinting, hormones and behaviour
遺伝的刷り込みとホルモンと行動
17. Pituitary tumour therapy: using the biology
下垂体腫瘍の治療：生物学を利用して
18. Puberty: mind and body
思春期：心と身体
19. Depression, stress and the adrenal axis
うつ病、ストレスおよび副腎軸
20. Seeing the light... in a new way
光を感じる... 未知の経路
21. Environmental estrogens: foe or friend?
環境ホルモン エストロゲン：敵か味方か？
22. The Neurobiology of Social Bonds
絆の神経生物学
23. Melatonin in humans - its about time
ヒトメラトニンー今こそ出番
24. Kisspeptin and its receptor: new gatekeepers of puberty
キスペプチンとその受容体：思春期の新たなゲートキーパー
25. Anabolic Steroids: A fatal attraction?
タンパク同化ステロイド：危険な誘惑？
26. The metabolic syndrome: a brain disease?
メタボリックシンドローム：脳の疾患？

-
-
27. Fetal Experience: Lifelong Consequences
胎児の経験は生涯に影響
 28. Is reproductive ageing controlled by the brain?
生殖年齢は脳によって制御される？
 29. Stem cells, hormones and pituitary adenomas
幹細胞、ホルモンおよび下垂体腺腫
 30. Neurogenesis and depression: breakthrough or blind alley?
ニューロン新生とうつ病：突破口か、それとも袋小路か？
 31. Endocannabinoids and the neurochemistry of gluttony
内在性カンナビノイドと大食いの神経化学
 32. Sex hormones and human destiny
性ホルモンと人間の運命
 33. Nurturing Nature: social experiences and the brain
本性を育てる：社会的経験と脳
 34. Leptin - back and forward
レプチン－これまでとこれから
 35. Preterm labour: Tsunami waves?
早期陣痛はつなみのように訪れる？
 36. Epigenetics: a lasting impression?
エピジェネティクス：冷めやらぬ感動？
 37. Are neuropeptides brain hormones?
神経ペプチドは脳のホルモンなのか？
 38. A mother's brain knows
母親の脳は知っている
 39. A neuro-endocrine-immune symphony
神経・内分泌・免疫のシンフォニー
 40. FTO and Obesity: a problem for a billion people
FTO (Fat mass and obesity related gene product)と
肥満：10億人の問題
 41. Keeping Birds of a Feather Together
同じ仲間と一緒にいるために
 42. The Neurohypophysis - Fishing for New Insights
下垂体後葉：新たな知見の探求
 43. Apelin and Vasopressin: two work better than one
アペリンとバゾプレッシン：2つの相乗効果
 44. My brain made me do it, and my gut didn't help
腸ではなく、脳がそれをさせている
 45. Hypoglycaemia: Exercise for the Brain?
低血糖：脳のエクササイズは効く？
 46. Nurture: Effects of Intrauterine Position on Behaviour
生育：子宮内での位置関係が生後の行動に及ぼす影響
 47. How our gut microbes influence our behaviour
腸内微生物は我々の行動にどのように影響するか

■ 学会・研究会のご案内 ■

●第8回国際神経内分泌学会議 (ICN2014)

(本誌p. 3 参照)

開催日：2014年 8月17日～20日

場 所：シドニー (オーストラリア)

ホームページ：<http://www.neuroendocrinology2014.org/>

●第40回日本神経内分泌学会学術集会

(本誌p. 1 参照)

本学術集会は、日本比較内分泌学会との合同開催を予定しています。

開催日：2013年 (平成25年) 10月25日 (金) ～ 26日 (土)

場 所：宮崎市民プラザ

<http://www.siminplaza.com/>

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号

TEL.0985-24-1008、FAX.0985-29-2244

会 長：日本神経内分泌学会 中里 雅光 (宮崎大学 医学部)

日本比較内分泌学会 香川 浩彦 (宮崎大学 農学部)

テーマ：inspire a generation：日本の神経内分泌研究のレガシーを次世代へ

演題受付期間：2013年 6月3日 (月) ～ 7月31日 (水)

(演題登録方法等は、下記ホームページをご覧ください。)

ホームページ：<http://www2.convention.co.jp/40JNS/>

●BIODYNAMICS 2013

開催日：2013年 9月11日～13日

場 所：ブリストル (英国)

ホームページ：<http://www.bio-dynamics2013.org>

Facebook：<http://www.facebook.com/biomed.dynamics>

●第38回組織細胞化学講習会

免疫組織化学、in situ ハイブリダイゼーションをはじめとした組織や細胞を対象とした様々な実験技術を、基礎から最新テクニックまでを解説、実践できるテクニカルセミナーです。日本組織細胞化学会の主催により年1回開催されています。

開催日：2013年 8月1日～3日

場 所：東京大学伊藤国際学術研究センター 及び 日本医科大学

ホームページ：<http://www3.nacos.com/kjshc/>

申し込み締め切り：2013年 6月28日 (金) (定員になり次第、締め切ります)

●第10回国際下垂体後葉ホルモン会議

(本誌p.3 参照)

開催日：2013年 7月15日～19日

場 所：ブリストル (英国)

ホームページ：<http://www.vasopressin.org/>

■ 事務局からのお願い ■

●2013年度新評議員の推薦（申請）を受け付け中です。論文数等の条件を満たす方は是非とも評議員としてご活躍ください。選考規定・関係書式はホームページ（<http://www.nacos.com/jns/>）にあります。2013年8月末日までに事務局に届くようお送りください。

●年会費は年度始めに送付いたします振込用紙にてお支払いいただくようお願いしておりますが、紛失された際は事務局までご請求いただくか、ゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙にて通信欄に会員番号・年度を明記の上、下記の口座にお振込み下さい。

口座番号：01030-7-18042

加入者名：日本神経内分泌学会

ニホンシンケイナイブンピガッカイ

未納分の会費額や会員番号がご不明の方は、お問い合わせ下さい。

なお、会員番号は本会からお送りいたします郵便物の宛名ラベルにも記載してあります。また、日本内分泌学会の会員の方は、日本内分泌学会の会員の会員番号が分科会の会員番号となっております。

●繰り返し会費納入をお願いしても長期（3年以上）にわたって会費を滞納されている方は「自動的に退会」となります。「自動的に退会」なる前に、事務局から最後のお願いを差し上げますので、是非会員として残られるようご検討ください。

神経内分泌学の領域は全身の内分泌機構の統合制御機能のみならず、エネルギー代謝、生殖、性行動、ストレス反応、体温、摂食、体液バランスの調節機構など幅広い領域をカバーし、その生理、病態生理および臨床面から新しい研究が次々に展開されています。会員の皆さまのご意見をもとに今後あらためて積極的な学会活動を行うよう種々の企画を進める予定ですので、ぜひとも会員資格を継続され本学会の発展のためにご協力下さい。

●事務局からの連絡は、業務効率化のため極力電子メールを用いるようにしております。電子メールアドレスをお届けでない先生は、下記の事務局までメールでご連絡下さい。また、ご自宅や勤務先の住所変更の際には必ずお知らせくださるようお願いいたします。（日本内分泌学会と共通のデータベースを使用しておりますので、日本内分泌学会にお届けの方は連絡不要です）

日本神経内分泌学会事務局

〒604-8111 京都市中京区三条通柳馬場西入ル栴屋町75番地

日本生命京都三条ビル3階 一般社団法人 日本内分泌学会内

日本神経内分泌学会

Phone：075-229-8252 Fax：075-229-8251 E-mail：jnes@wine.ocn.ne.jp

担当：小南 悟郎、伊佐 潤子

《住所の英語表記》

Japan Neuroendocrine Society

The 3rd Floor, Nihon Seimei Kyoto Sanjo Building

75 Masuya-cho

Sanjo Yanaginobamba-nishiiru, nakagyou-ku,

Kyoto 604-8111 JAPAN

■ 役員リスト ■

大 磯 ユタカ	理事長	名古屋大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌内科学
島 津 章	常務理事（庶務）	国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター
井 樋 慶 一	理事（庶務）	東北大学大学院 情報科学研究科 情報生物学分野
尾 仲 達 史	理事（庶務）	自治医科大学 神経脳生理学講座
小 川 佳 宏	理事（庶務）	東京医科歯科大学 医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科
岩 崎 泰 正	常務理事（会計）	高知大学 臨床医学部門 保健管理センター
小 澤 一 史	理事（会計）	日本医科大学大学院 医学研究科 解剖学・神経生物学分野
高 野 幸 路	理事（会計）	東京大学 医学部附属病院 腎臓・内分泌内科
上 田 陽 一	常務理事（企画広報）	産業医科大学 医学部 第一生理学
沖 隆	理事（企画広報）	浜松医科大学 第二内科
中 尾 一 和	理事（企画広報）	京都大学大学院 医学研究科 メディカルイノベーションセンター
西 真 弓	理事（企画広報）	奈良県立医科大学 第一解剖学講座
中 里 雅 光	常務理事（次世代育成）	宮崎大学 医学部 内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野
寒 川 賢 治	理事（次世代育成）	国立循環器病研究センター研究所
河 田 光 博	理事（次世代育成）	京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体構造科学部門
汾 陽 光 盛	理事（次世代育成）	北里大学 獣医学部 獣医生理学
前 多 敬一郎	監事	東京大学大学院農学生命科学研究科動物育種繁殖学教室
有 田 順	監事	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 第一生理

（以上 18名）

役員任期は2012年総会翌日～2014年総会日 理事長のみ2010年総会翌日～2014年総会日

■ 名誉会員リスト ■

新 井 康 允	井 端 泰 彦	井 村 裕 夫	入 江 實	加 藤 順 三
加 藤 讓	貴 邑 富久子	齋 藤 壽 一	佐 野 豊	鎮 目 和 夫
高 橋 迪 雄	高 原 二 郎	出 村 博	橋 本 浩 三	廣 重 力
牧 野 恒 久	松 尾 壽 之	松 倉 茂	山 下 博	

（以上 19名）

名誉会員、吉田尚先生は、2013年1月17日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。（p2に関連記事）

■ 功労評議員リスト ■

井 口 昭 久	石 井 淳	石 居 進	石 橋 みゆき	井 上 金 治
井 上 修 二	大 郷 勝 三	沖 充	加 藤 進 昌	久 保 勝 知
佐久間 康 夫	佐々木 英 夫	芝 崎 保	鈴 木 光 雄	須 田 俊 宏
高 野 加寿恵	武 谷 雄 二	田 辺 清 男	谷 口 洋	千 原 和 夫
中 井 康 光	中 井 義 勝	中 林 肇	本 間 研 一	本 間 さ と
牧 野 英 一	本 松 利 治	森 昌 朋	森 下 一	森 本 靖 彦
柳 瀬 昌 弘	山 路 徹	吉 見 輝 也		

（以上 33名）

■ 2012年度 新入会員 ■

相吉澤 輝 洋	東北大学 大学院情報科学研究科情報生物学分野 井樋研究室
秋 枝 さやか	東北大学 フロンティア科学実験総合センター生理活性物質機能解析分野
Ashraf, Talukder	東北大学 大学院情報科学研究科 情報生物学分野
東 慶 成	名古屋大学 医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科
石 原 康 宏	広島大学 大学院総合科学研究科行動科学講座 分子脳科学研究室
井 田 隆 徳	宮崎大学 IR推進機構
岩 田 尚 子	名古屋第一赤十字病院 内分泌内科
上野山 賀 久	名古屋大学 大学院生命農学研究科 生殖科学研究分野
大 野 素 子	産業医科大学 医学部第一生理学
金 井 裕 彦	滋賀医科大学 精神医学講座
河 村 大 輔	健和会大手町病院内科診療部 総合診療科
佐 藤 慧 太	岡山大学 理学部附属臨海実験所 共同利用拠点 (UMI)
須 賀 英 隆	名古屋大学 医学部附属病院糖尿病・内分泌内科
高 木 博 史	名古屋大学 大学院糖尿病・内分泌内科学
高 浪 景 子	京都府立医科大学 解剖学・生体構造科学
野 畑 重 教	東京大学 大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター
箱 田 明 子	東北大学 医学部医学系研究科 分子内分泌学分野
服 部 裕次郎	日本医科大学附属病院 脳神経外科
樋 口 雅 司	明治大学 研究・知財戦略機構
森 啓 介	日本医科大学 大学院疼痛制御麻酔科学分野
森 谷 敬 一	帝人ファーマ (株)
横 橋 悠	東北大学 大学院情報科学研究科 情報生物学分野

(以上 22名)

■ 賛 助 会 員 ■

キッセイ薬品工業株式会社	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-9
帝人ファーマ株式会社	〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館
日本イーライリリー株式会社	〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5 三ノ宮プラザビル
ノバルティスファーマ株式会社	〒106-8618 東京都港区西麻布4-17-30
ノボノルディスクファーマ株式会社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
ファイザー株式会社	〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
三菱化学メディエンス株式会社	〒108-8559 東京都港区芝浦4-2-8

(以上 7 社)

日本内分泌学会 分科会
日本神経内分泌学会 定款

施行	昭和56年 6月 5日
一部改正	昭和59年11月 3日
〃	平成 2年10月31日
〃	平成 6年12月 3日
〃	平成 9年11月 8日
〃	平成11年10月29日
〃	平成14年10月11日
〃	平成15年 9月11日
〃	平成16年10月 9日
〃	平成17年 7月 8日
〃	平成18年10月27日
〃	平成19年 8月 4日
〃	平成23年11月25日
〃	平成24年 9月28日

- 第1条 本会は日本神経内分泌学会（Japan Neuroendocrine Society）と称する。
- 第2条 本会の事務局は理事会の指定する場所におく。
- 第3条 本会は神経内分泌学の進歩・向上をはかることを目的とする。
- 第4条 本会は次の事業を行なう。
1. 学術集会の開催
 2. 国際交流の促進
 3. 国際的研究者の育成
 4. その他、本会の目的達成に必要な事項
- (会員)
- 第5条 本会の会員を次のように分ける。
1. 一般会員
 2. 名誉会員
 3. 賛助会員
- 第6条 一般会員は本会の目的に賛同し、所定の年会費を納入した者で、その年度の学術講演会での講演発表の権利を有する。また3年連続して会費を納入しなかった者は会員の権利を失う。
- 第7条 1. 一般会員が退会を希望するときは、理由を付して退会届を理事長に提出しなければならない。
2. 名誉会員は本会の目的に関し特に功績のあった者で理事会が推薦し、評議員会の承認を得て決定し、総会に報告する。
2. 名誉会員は一般会員と同等の資格および権利を有するが会費は免除される。
- 第8条 賛助会員は本会の目的に賛同し、賛助会費を納入した個人または団体である。
- 第9条 一般会員および賛助会員の会費は理事会で立案し、評議員会と総会の承認を得る。
- (役員)
- 第10条 本会に次の役員を置く。
1. 理事 若干名（うち理事長1名）
 2. 監事 2名
- (役員を選任)
- 第11条 1. 理事は評議員の投票または理事長の推薦により評議員会および総会の承認を得て選任する。理事長の推薦による理事は原則3名とするが、必要に応じ若干名を追加することができる。
2. 理事は互選で理事長を定める。
3. 監事は理事長が推薦し、評議員会および総会の承認を得るものとする。
- (理事の職務)
- 第12条 1. 理事長は、本会を代表し会務を統轄する。
2. 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事長が指名した順序により、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。
3. 理事は理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、本会の総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。
4. 理事は理事長の業務を補佐する。
5. 理事長は必要に応じ、本会の運営に必要な研究賞選考委員会などの諸種委員会の設置および委員の委嘱を行なうことができる。
6. 理事長又はその代理者は日本内分泌学会との十分な連絡を図るため、日本内分泌学会理事会にオブザーバーとして出席する。
- (監事の職務)
- 第13条 1. 監事は本会の業務および財産を監査する。
2. 監事は理事会に出席する。
- (役員任期)
- 第14条 1. 理事長の任期は4年とする。
2. 理事の任期は2年とする。評議員の投票により選ばれた理事は理事会の推薦および評議員会・総会の選任決議を経て、連続してもう1期再任できる。所定の任期終了後も評議員の投票または理事長の推薦により再選された場合には重任を妨げない。
3. 監事の任期は2年とする。連続する場合は1期に限り再任できる。
4. 役員任期は学術集会時の総会の日からはじまり、それぞれ定められた任期を経た後の学術集会時の総会の日

- をもって終了する。
5. 役員は65歳の誕生日を迎えた後は、現在の任期を終了した後、更に再任されることはない。
- (理事会)
- 第15条 理事会は理事長が召集する。
2. 理事会の議長は理事長とする。
- 第16条 理事会は理事の現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することは出来ない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示した者および他の理事を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。
2. 理事会の決定は出席者の過半数による。可否同数の時は、理事長が決する。
3. 理事長は出席が必要と認められた者を、オブザーバーとして理事会に出席させることができる。
- (評議員、功労評議員の選出および任期)
- 第17条 評議員は評議員2名以上の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会の議を経て定め、学術集会時の総会の承認を得るものとする。
2. 評議員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、再任は理事会において審議し、評議員会および総会の承認を得るものとする。
3. 評議員は4年の任期を満了しない場合でも、65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。
4. 功労評議員は、第17条3項により任期を終了した評議員で、議員歴10年以上の経歴を有し本会に功労のあった者の中から、理事会の議決を経て推薦される。
- (評議員、功労評議員の職務、権利)
- 第18条 評議員は評議員会を組織して、理事長および理事会の諮問事項、その他本会の運営に関する事項を審議する。
2. 功労評議員は、評議員会に出席できるが、評議員会の表決に加わることができない。理事長は、必要があると認められた時は、功労評議員に対し意見を求めることができる。功労評議員は本会会費を免除される。
- (評議員会)
- 第19条 評議員会は年1回、学術集会時の総会に先立って、理事長が召集する。但し、正当な理由がある場合は、総会と合同で開催できるものとする。
2. 評議員会の議長は、出席議員の互選により定める。
- 第20条 評議員会は、評議員現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示したものおよび他の評議員を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。
2. 評議員会の決定は出席評議員の過半数による。可否同数のときは、議長が決する。
- (総会)
- 第21条 総会は会員をもって組織する。
- 第22条 総会は学術集会時を含めて少なくとも年1回、理事長が召集し開催する。
2. 臨時総会は、理事会が必要と認められたとき、理事長が召集する。
- 第23条 総会の議長は出席会員の互選により定める。
- 第24条 総会は理事会と評議員会における審議事項を議決する。
- 第25条 総会は会員現在数の3分の1以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示したものおよび他の会員を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。
2. 総会の決定は出席会員の過半数による。可否同数のときは、議長が決する。
- (会長)
- 第26条 会長はその年度の学術集会に関わる任務を遂行する。
- 第27条 会長は理事会において推薦し、評議員会および総会の承認を得て決定する。
- 第28条 会長の任期は1年とし、前回学術集会の終了翌日から学術集会終了の日までとする。
- (学術集会)
- 第29条 学術集会は毎年1回、秋に開催する。またその内容は本会として特色あるものとする。
- 第30条 学術集会に発表する者は、会員であることを必要とする。ただし、本会の主旨に賛同する非会員で会長が承認した場合には発表を行なうことができる。
- (表彰)
- 第31条 神経内分泌学の領域において優れた業績をあげた研究者に対し、別に定める規程に基づき、研究賞を授与する。また、基礎的研究の発展を推進するために若手研究助成金制度を設け、別に定める規程に基づき助成を行う。
2. 本会の目的の達成または事業の遂行に関し特段の功績のあった者に対し、別に定める規程に基づき、特別功労賞を授与する。
3. 学会業績が卓越しており、かつ指導的立場で学会活動に精勤している者に対し、別に定める規程に基づき、学会賞を授与する。
- (国際神経内分泌連盟)
- 第32条 本会は International Neuroendocrine Federation (国際神経内分泌連盟) に加盟し、年会費を負担する。
- (会計)
- 第33条 本会の運営には次の資金をあてる。
1. 会費
 2. 寄付金
 3. 資産から生ずる収入
 4. その他の収入
2. 年度会計の報告は監事の監査を経た後、理事会、評議員会並びに総会にはかり承認を得る。
3. 会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (会則の変更など)
- 第34条 本会則の変更および細則の作成には理事会および評議員会の議を経て総会の承認を得る。
- (附則)
- 第35条 本会則は平成11年10月29日より施行する。

日本神経内分泌学会 定款施行細則

施行 平成12年10月13日
一部改正 平成14年10月11日
一部改正 平成23年11月25日

(役員)

- 第1条 定款第11条に定める評議員による理事選出は、理事長が委嘱した選挙管理委員会の管理下に郵便により行なう。
2. 選挙の結果、得票数が同数となった場合は会員歴の長い者を選任するものとする。
- 第2条 選挙により理事に選任された者が任期の途中で辞任したときは、投票で次点となった者を繰り上げて、評議員および総会で承認を得て理事に選任する。
- この場合の任期は前任者の残任期間とする。

(会務の担当)

- 第3条 理事長は理事から庶務担当、会計担当、次世代育成担当および企画・広報担当の理事それぞれ複数名を任命する。
- 第4条 理事長は日本神経内分泌学会の代表者としてInternational Neuroendocrine Federation（国際神経内分泌連盟）のcouncil memberを兼任する。但し、Executive Committee Member に選ばれた場合には、その任期（4年）が終了するまで新理事長代理としてExecutive Committeeに出席する。
- 第5条 庶務担当理事は次の事項を担当する。
- (1) 会員に関する事項
入会、退会、会員の認定
 - (2) 評議員に関する事項
評議員の選出に関する手続き、評議員会の議案と記録
 - (3) 理事会に関する事項
理事会の議案と記録
理事の選出に関する手続き
 - (4) 記録の保管と雑誌への掲載
 - (5) 外部との折衝に関する事項
 - (6) 学術集会に関する事項
 - (7) その他、庶務に関する事項
- 第6条 会計担当理事は次の事項を担当する。
- (1) 現金の出納および保管
 - (2) 会費の請求および収納
 - (3) 予算および決算に関する事項
 - (4) 会計帳簿および証書類の整理および保管
 - (5) その他、会計資産に関する事項
- 第7条 次世代育成担当理事は次の事項を担当する。
- (1) 学術賞の受賞候補者を選出し、理事会に答申する。
 - (2) その他、次世代育成に関する事項
- 第8条 企画・広報担当理事は次の事項を担当する。
- (1) 学会の運営と事業の企画・立案に関する事項
 - (2) 学会の運営と事業について学会員および関係する各方面への広報活動

(年次学術集会)

- 第9条 年次学術集会は、第 回日本神経内分泌学会学術集会と呼称する。
- 第10条 年次学術集会の会期は原則として2日とする。
- 第11条 年次学術集会における講演抄録は、日本内分泌学会雑誌に掲載し会員に配布する。
- 第12条 年次学術集会の経費は、本会の学術集会費などをもって充てる。会長は収支決算書を作成し、理事長に報告する。

(細則の変更など)

- 第13条 会則及び細則施行に関し必要な規定は、理事会の議を経てその都度別にこれを定める。
- 第14条 本細則を改正するためには、理事会、評議員会及び総会の議決を経なければならない。
- 第15条 本細則は、平成12年10月13日より適用する。

Norditropin®
FlexPro®



ヒト成長ホルモン(遺伝子組換え)製剤

ノルディトロピン® フレックスプロ® 注

薬価基準収載

5mg
10mg
15mg

Norditropin® FlexPro®

一般名:ソマトロピン(遺伝子組換え)

処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等につきましては、添付文書をご参照下さい。



製造販売元 (資料請求先)

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
www.novonordisk.co.jp

2-1-3418-02-01
2011年3月作成

Lilly



● シンプルなアナログ式

アナログ式だから見やすく、操作が簡単になりました。

● 製剤含量 (6mg/12mg) 別の専用ペン

それぞれのカートリッジをペンにセットするだけ。複雑な初期設定は要りません。

● 詳細な投与量設定刻み

投与量は6mg用ペンなら0.025mg刻み、12mg用ペンなら0.05mg刻みになりました。
患者さんの体重に合わせて、より適切な投与量を設定できます。

● 1回最大投与量は3.00mg

12mg用ペンなら、1回の最大投与量が3.00mgです。
体重60kgまでのターナー症候群および軟骨異常症の患者さんにも対応できます。

● 安全性と患者心理に配慮した針隠しカバー標準搭載

患者さんの注射に対する恐怖心を軽減し、安全性に配慮した針隠しカバーを標準搭載しました。

管理医療機器
医薬品ペン型注入器

ヒューマトローペン® 6mg

HumatroPen® 6mg

ヒューマトローブ®注射用6mgカートリッジ専用

認証番号: 221ADBZX0011000

ヒューマトローペン® 12mg

HumatroPen® 12mg

ヒューマトローブ®注射用12mgカートリッジ専用

認証番号: 221ADBZX00112000

*ヒューマトローペン®6mgおよび12mgのご使用に際しては、添付文書および取扱説明書をよくお読みください。

*ヒューマトローブ®注射用6mgおよび12mgの「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「副作用」等の詳細については添付文書をご参照ください。

ヒューマトローペン®6mg・ヒューマトローペン®12mgは日本イーライリリー株式会社のヒト成長ホルモン製剤カートリッジ専用の医薬品ペン型注入器です。

製造販売元 <資料請求先>

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers リリーアンサーズ

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

0120-360-605^{*1} (医療関係者向け) 受付時間: 月曜日～金曜日 8:45～17:30^{*2}

*1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。 *2 祝祭日および当社休日を除きます。



遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤 薬価基準収載

処方せん医薬品[※] 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

グロウジェクト[®] 注射用1.33mg
注射用8mg
BC 注射用 8mg

注射用ソマトロピン(遺伝子組換え)

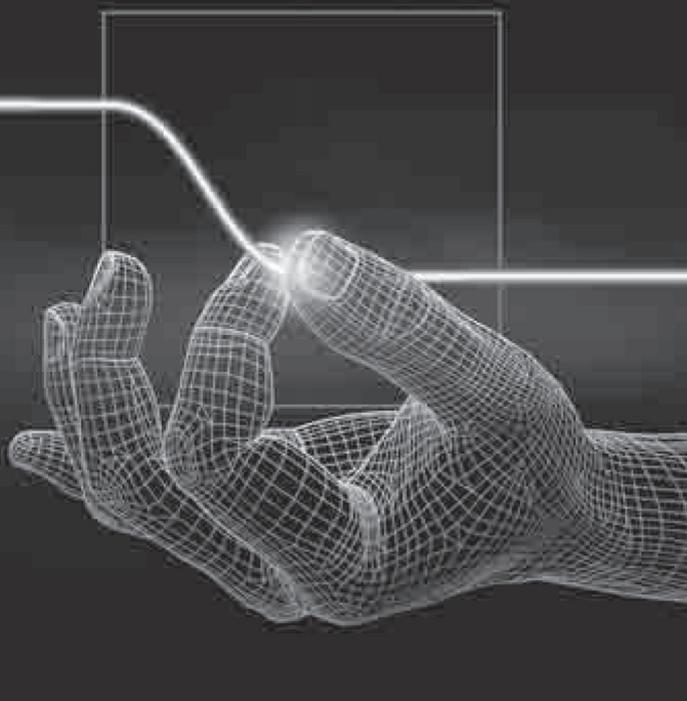
効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等につきましては
製品添付文書をご覧ください。

製造販売元(資料請求先:学術企画部)

日本ケミカルリサーチ株式会社

〒659-0021 兵庫県芦屋市春日町3-19

2012.11.作成



成長ホルモン受容体拮抗剤

[薬価基準収載]

ソマバート[®] 皮下注用 **10mg**
15mg
20mg

SOMAVERT[®] for s. c. Injection 10mg, 15mg, 20mg

注射用ペグビソマント(遺伝子組換え)

劇薬、処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること

●「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等は添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

2012年6月作成

新発売

持続性ソマトスタチンアナログ徐放性製剤 薬価基準収載



ソマチュリン®皮下注 60mg
90mg
120mg

Somatuline® 60mg・90mg・120mg for s.c. Injection

ランレオチド酢酸塩徐放性製剤

劇薬 処方せん医薬品*

* 注意 — 医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

商標
ソマチュリン®/Somatuline® is the registered trademark of Ipsen Pharma, Paris, France.

製造販売元(輸入元)

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

[資料請求先] 学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

SML013(AD)1304
2013年4月作成

NOVARTIS
ONCOLOGY



効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。



持続性ソマトスタチンアナログ マイクロスフェア型徐放性製剤 薬価基準収載

サンドスタチン®LAR® 筋注用 10mg
20mg
30mg

劇薬 処方せん医薬品

注意—医師等の処方せんにより使用すること

Sandostatin®LAR®

オクトレオチド酢酸塩徐放性製剤

製造販売

ノバルティス ファーマ株式会社
東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

(資料請求先)

NOVARTIS DIRECT

0120-003-293

受付時間：月～金 9:00～17:30

(祝日及び当社休日を除く)

www.novartis.jp

